

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	監査論A(AuditingA)		授業コード	E008701
担当教員名	工藤 順一		科目ナンバリングコード	E30611
配当学年	3	開講期	前期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	公務員を目指す人や企業に就職する人にとって監査はとても有用です。法や基準を読むのに慣れるためにも、最新の「監査基準」を持参してください。インターネット等でも検索可能です。			
受講心得	講義では、「監査基準」を元に進めていきますので、監査基準と照らし合わせながら、監査の問題点を考えてください。			
教科書	最初の講義で指定します。			
参考文献及び指定図書	監査論テキスト 第4版 山浦久司著 中央会経済社 会計監査論 第5版 山浦久司著 中央経済社			
関連科目	財務諸表論 会社法 原価計算論 経営学入門			

授業の目的	公務員を目指す人や企業に就職する人にとってもとても有用です。また、監査論は公認会計士試験の中心的な科目でもあります。監査論の背景にある考え方をしっかり理解するようにしてください。
授業の概要	公務員だけでなく企業に就職して監査に臨んだときにも、役に立つような授業にしたいと思います。まずは、監査論および会社法等の基礎的な知識を身につけましょう。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：会計監査のフレームワーク 監査という言葉や、財務諸表監査の定義と目的、財務諸表と監査との関係についても学習します。また、会計監査の限界についても学習します。	配布資料 演習の課題と解答例
第2週：財務諸表監査の歴史 現在の財務諸表監査制度の成立に至る歴史的な経緯を概観します。職業的専門家による会計監査の歴史について、精細監査や貸借対照表監査及び財務諸表監査に分けてそれぞれの歴史や我が国の公認会計士監査制度の歴史を学びます。	配布資料 演習の課題と解答例
第3週：監査の種類 現在社会において行われている会計監査と業務監査、実態監査と情報監査といった監査の種類を学習します。	配布資料 演習の課題と解答例
第4週：監査基準総論 財務諸表監査制度が確立するためには、財務諸表監査において監査人が順守すべき監査基準が設定されている必要があります。そこで、監査基準の定義や監査基準の必要性、監査基準の性質・効果について学びます。	配布資料 演習の課題と解答例
第5週：財務諸表監査の必要性 財務諸表監査が必要となる理論的背景と財務諸表監査の必要性やその目的を学びます。監査基準第一監査の目的に沿って学習します。また、経営者と監査人との責任の区別(二重責任の原則)についても学びます。	配布資料 演習の課題と解答例
第6週：監査人(監査主体論) 監査人の能力条件について、監査基準第二一般基準1に沿って学習します。また、一般基準2に掲げられている監査人の公正不偏の態度の意味や独立性について細かく学習していきます。	配布資料 演習の課題と解答例

第7週：正当な注意と職業的懐疑心		
一般基準3に掲げられている監査人の正当な注意や職業的懐疑心について学習します。また、正当な注意によって保つべき品質管理も学びます。		配布資料 演習の課題と解答例
第8週：会計監査の実施		
監査の実施の内容は多岐に渡るため、全体の実施プロセスについて学習します。監査契約の締結から監査計画の策定、監査意見を形成するに足る監査証拠を入手するまでのプロセスについて学習します。		配布資料 演習の課題と解答例
第9週：監査要点		
監査人は、監査要点を設定し、これらに適合した十分かつ適切な監査証拠を入手しなければなりません。ここでは、監査要点について、監査意見形成とどのようにつながっていくのか、監査要点の事例等をとりあげながら学習していきます。		配布資料 演習の課題と解答例
第10週：監査手続		
監査手続とは、監査証拠の入手のための個々の監査手法（監査技術）の適用方法や手順をいいますが、これら監査手続の種類について学習します。		配布資料 演習の課題と解答例
第11週：監査証拠		
監査証拠とは、監査要点を立証するために監査人が入手するすべての裏付け証拠をいいますが、これら監査証拠の種類や量的・質的十分性を学習します。		配布資料 演習の課題と解答例
第12週：内部統制		
内部統制の概念を取り上げたうえで、監査の実施過程における内部統制の位置付けを行い、さらに次週学ぶ内部統制に依拠した試査についての基礎的な部分を学びます。		配布資料 演習の課題と解答例
第13週：試査		
監査基準は「試査」を監査手続の原則的方法と位置付けていますが、この試査の定義やサンプリングの基礎概念やサンプリングの適用事例を学習します。		配布資料 演習の課題と解答例
第14週：監査人の法的責任		
監査人の法的責任について、民事責任、刑事責任、行政処分等に分けて学びます。さらに、金融商品取引法や会社法上における監査人の責任についても学習します。		配布資料 演習の課題と解答例
第15週：リスクアプローチ		
監査においても投資と効果をいかに結び付けるかという戦略が必要となります。ここでは、その戦略の基礎になっているリスクアプローチという思考について学習します。		配布資料 演習の課題と解答例
第16週：期末試験		
すべての講義に関して総復習の意味でのテストを行います。		配布試験資料 試験と解答例
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	カテゴリー III：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	新聞記事では、監査に関する記事をよく見かけます。それは、粉飾決算等の記事だけを指すものではありません。いろいろな記事が監査とつながっています。まずは関心を持ってくださいね。
【知識・理解】	監査論の知識は、公認会計士だけでなく、官庁や企業においても役に立ちます。監査論を理解するためには会社のことを理解するとともに、なぜ監査が必要かということを理解する必要があります。
【技能・表現・コミュニケーション】	授業の中で、小テストを通じて、監査論で学んだ考え方を表現していただきます。実質的には同じ内容であっても表現方法が異なると異なってきます。いろいろな表現方法を学習しましょう。
【思考・判断・創造】	常に、なぜ？という考え方を身につけてください。知識をそのまま覚えることも大切ですが、なぜそうなっているのかをいつも考えていると覚えるのも楽になります。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	30点		10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	10点	10点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	10点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点	10点		
(「人間力」について)				
※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	講義の初めに課題を出し、提出をもって出席に代える場合がありますので、課題を解いて提出してください。達成水準の目安は以下の通りです。Sレベル:達成目標を満たしている。Aレベル:ほぼ満たしている。Bレベル:なんとか満たしている。Cレベル:一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	授業の中で適宜質問します。質問に対する解答については、成績評価において加点することがあります。